

大学間連携による教育・研究強化が拓く就学の機会

中央教育審議会大学分科会
高等教育の在り方に関する特別部会（第2回）
2024年 1月 26日（金）
松塚ゆかり（一橋大学）

諮問事項 1 2040年以降の社会を見据えた高等教育 が目指すべき姿

- グランドデザイン答申で示された高等教育の目指すべき姿を前提としつつ、同答申以降の社会的、経済的变化を踏まえ、これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力の育成に向け、高等教育機関に関して今後更に取り組むべき具体的方策について検討。
- その際、成長分野をけん引する人材の育成や大学院教育の改革、社会人や留学生等の受入れによる「多様な価値観が集まるキャンパス」の重要性に留意。

【本発表での検討事項】

1. これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力
2. 今後取り組むべき具体的方策： 多様な価値観が集まるキャンパスの重要性に留意して
3. 大学間連携による教育・研究強化が拓く就学の機会

アウトライン

1. これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力

- ① グランドデザイン（平成30年）とその後の政策展開概略の確認
- ② グランドデザイン後の社会的、経済的变化
- ③ 大卒に求められる資質と技能：国際比較研究から得た示唆

2. 今後取り組むべき具体的方策：

「多様な価値観が集まるキャンパス」の重要性に留意して

- ① 学習機会と内容、期待される成果の明示
- ② 大学による自律的情報発信
- ③ 学習機会と内容、成果の明示・発信と就学者の拡大

3. 大学間連携による教育・研究強化が拓く就学の機会

（1と2の延長線上にある大学間連携による教育・研究の高度化）

1. これからの時代を担う人材に必要なとされる資質・能力

① グランドデザインとその後の政策的進展の確認

【高等教育の在り方に関する特別部会 参考資料集】から抜粋

平成30年

I. 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿

… 学修者本位の教育への転換…

II. 教育研究体制 … 多様性と柔軟性の確保 …

III. 教育の質の保証と情報公表 … 「学び」の質保証の再構築…

IV. 18歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置

… あらゆる世代が学ぶ「知の基盤」…

V. 各高等教育機関の役割等…多様な機関による多様な教育の提供 …

平成31年 専門職大学・専門職短期大学の制度化

令和2年 「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会）

高等教育の修学支援新制度の開始

令和4年 大学設置基準等の改正（専任教員の見直し、特例制度の新設等）

1. これからの時代を担う人材に必要なとされる資質・能力

② グランドデザイン後の社会的、経済的变化

- 少子化の進行 ➤ 高等教育機関進学者の減少（参： 高等教育の在り方に関する特別部会 参考データ集 ）
- 新型コロナ感染症拡大を契機とした遠隔教育の急速な普及
- 国際情勢の不安定化にともなう留学・研究交流、大学間連携難航の一方で問われる国際コミュニケーション力
- 経済格差の拡大と教育格差の顕在化
- 就労者の流動化
 - 転職の増加 ⇔ メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用への転換
 - 新卒一括採用・終身雇用制度の見直し： 「就社」から「就職」へ
 - ヴァーチャルモビリティの増大： 場所にとらわれない学びと仕事
(例： Digital Nomadic Worker)
- 生成AIの急速な発展と普及にみられる急速な技術革新

1. これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力

③ 国際比較研究から得た示唆

必要とされる資質・能力を明らかにしようとした試み：

「大卒に求められる資質と技能の国際比較調査」

- **背景：** 1990年頃よりOECD各国を中心に高等教育にもとめられた「何を教えるか」から「何が身に付いたのか（学修成果）」への転換

「何が身に付けばよいのか」を明らかにしてそこに到達できるようカリキュラムと科目を組み立てていく（例：Rubrics、Tuning、参照基準）

- **調査の枠組み：** Tuning Pilot を基礎枠組みとし、「何が身に付けばよいのか」= 大卒に求められる資質と技能（コンピテンス）を、大学のステークホルダーである学生、教員、卒業生、企業等雇用者に尋ねる質問紙調査を実施（汎用と専門分野別に設計） EUの結果と統合分析

日本： 2012年に文部科学省の支援の下に設置された「教育改革推進懇話会（旧7帝大と東工、筑波、早稲田、慶應義塾、一橋）に置かれた「チューニング・ワーキング」によって2014年から3回にわたって実施

EU： 2000年にボローニャプロセスの一環としてデュウスト大学とフローニンゲン大学を中心に15大学からなるチューニングパイロットスタディーの第四バージョン（EU-IV;2008）

1. これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力

③ 国際比較研究から得た示唆

有効回答者数

	教員	学生	卒業生	企業
日本	586	2767	817	473
EU	2041	1948	2219	879

- 教員、学生、卒業生、企業に対して大学で習得することが期待される資質・能力（コンピテンス）について4点尺度で答えてもらう。国際比較分析では、汎用、歴史、物理、化学を対象（汎用リストを巻末に添付）

日本のみの結果（汎用）

	教員	学生	卒業生	企業	全対象者
教員	1				
学生	.937**	1			
卒業生	.727**	.860**	1		
企業	.499**	.645**	.893**	1	
全対象者	.858**	.847**	.962**	.947**	1

1. これからの時代を担う人材に必要とされる資質・能力

③ 国際比較研究から得た示唆

日本とEUのステークホルダー間の相関

		日本				
		教員	学生	卒業生	企業	全員
EU	教員	.837**	.725**	.473**	.204	.596**
	学生	.769**	.741**	.584**	.364*	.670**
	卒業生	.752**	.750**	.649**	.420*	.700**
	企業	.656**	.700**	.713**	.563**	.726**
	全員	.817**	.769**	.595**	.349	.683**

- 必要であるとされる資質・能力はステークホルダー間で有意に異なる。
- 地域間で必要な資質・能力の認識が共有されているわけではない。地域が増えれば一層見極めが困難になるだろうことから、ニーズを一般化して「応答性」を満たすことで大学の価値を打ち出すことは容易ではない。
- 一方で、学修者本位の視点から学習の機会と内容を明示し大学がその情報を自律的に発信していくことは、昨今の社会的・経済的变化を鑑みると一層重要になるだろう。

2. 今後取り組むべき具体的方策： 多様な価値観が集まるキャンパスの重要性に留意して

① 学習機会と内容、期待される成果の明示

【社会的経済的変化（P5）への対応】

- 高等教育機関進学者の減少 ⇒ 大学就学人口の拡大
- 遠隔教育の急速な普及 ⇒ 広域に向けた学習の機会と内容の明示
- 留学・研究交流不安定化の一方で問われる国際コミュニケーション力
⇒ 国際的認知と需要を掘り起こす学習機会と内容の説明
- 経済格差の拡大と教育格差 ⇒ 修学支援新制度の導入（参：特別部会 参考資料集 P114～118） + 進学を逸した社会人の復学
- 就労者の流動化（転職、ジョブ型雇用、Nomad）
⇒ 学習内容と期待される成果にもとづく、
単位互換・累積、ディプロマサプリメント等の整備・運用
⇒ 流動化に対応し流動性を支える大学間連携
- 生成AIの急速な発展と普及をはじめとする急速な技術革新
⇒ 異分野間連携と継続的学びなおしの場の提供
⇒ 情報収集・伝達とは異次元の個別大学の特色強化

2. 今後取り組むべき具体的方策： 多様な価値観が集まるキャンパスの重要性に留意して

② 大学による自律的情報発信

- 個別大学の理念と目的に基づき「何をどのように学ぶことができ、身に付けることができるのか、あるいは身に付けてほしいのか」を自律的に発信。
- この工程において、例えばTuning Projectでは、大学は企業をはじめとする雇用主や産業の代表に「Consult」をするがその関係性は、意見交換から協働まで多様である。
- 自律的であることによって、各大学独自の文化やアイデンティティーを維持強化し、他の教育機関との差別化が容易になる。
- 大学連携の在り方は大学によって大きく異なる（地域内連携、国際連携、領域間連携、領域内連携等々）ため独自のアプローチを組み立てていかななくてはならない。
- 教学連携であっても運営の観点に伴うために、日本で展開されている教学IRは、本来のInstitutional Researchへ、そしてInter-institutional Researchへと転換することが問われる。

2. 今後取り組むべき具体的方策： 多様な価値観が集まるキャンパスの重要性に留意して

② 大学による自律的情報発信

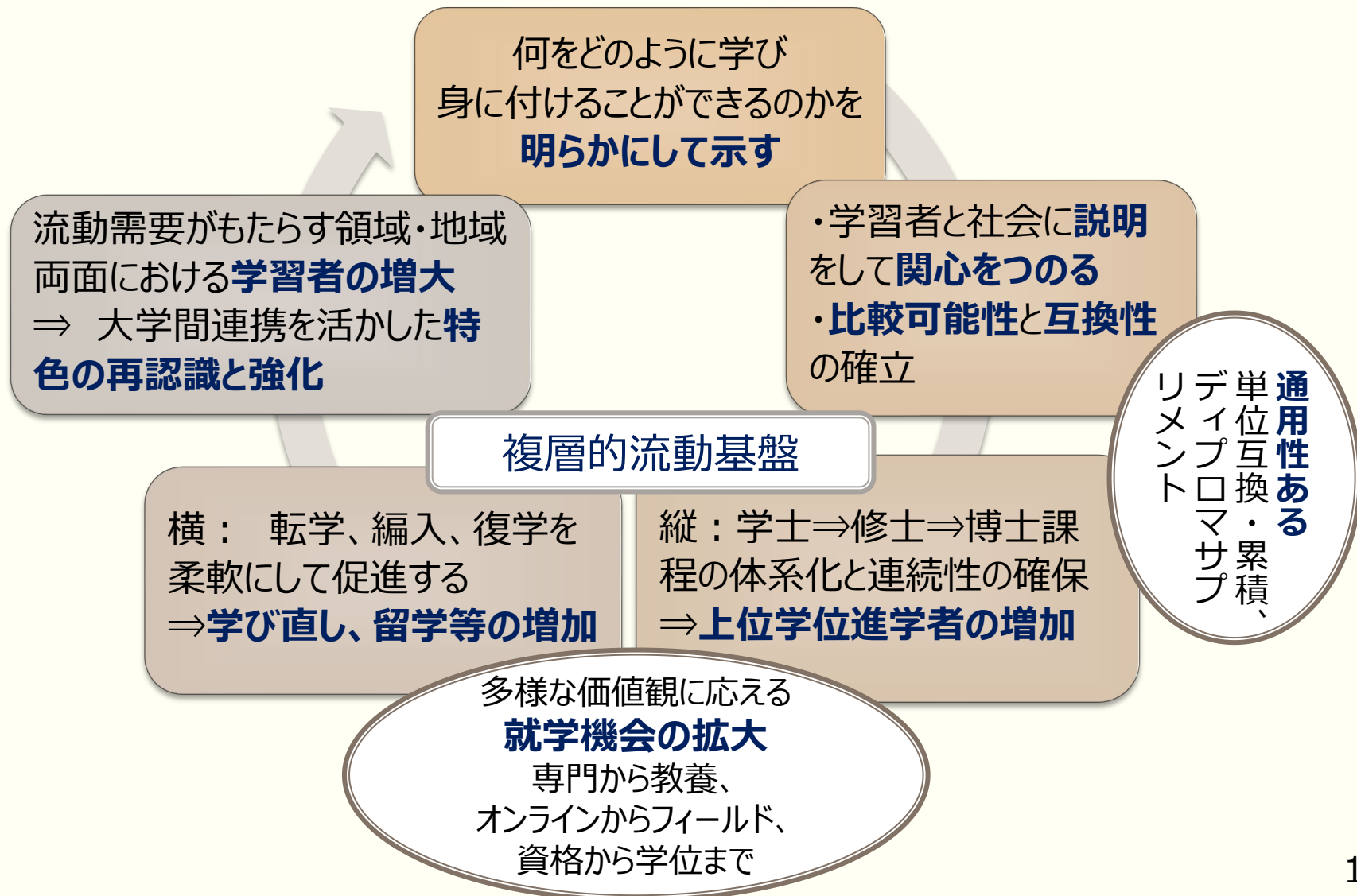
【学生の声から】

- 人文・社会科学を専攻する学生を対象に、「将来上位の学位（修士、博士など）の学位取得のために大学で学ぶ予定あるいは希望はあるか」尋ねたところ、「ある」が92名（28%）、「ない」が237名（72%）であった。
- その理由に関する自由記述を解析したところ、情報不足が指摘される傾向があり、たとえば「上位学位をとるということに対する知識が少ない（はっきり理解できていない）」、「修士や博士を取ることによって何を達成することができるのかわからない」、「自分の研究したいと思えるような学問に出会っていないまたはよく知らない」などの声があがった。
- また、人社系の院進学は「研究者の道を歩むということの意味しているというイメージ」、「日本で研究者として成功できるのはほんの一握り」、「文系の大学院での勉強が就職に役に立つのか」など、博士号取得者＝研究者＝就職難という認識がある。海外の状況等を参考に博士取得者の多様な進路を把握することが有用ではないか。

⇒ 選択には情報が必要であり、具体的な情報に基づく行動選択は確かな成果を生む。

2. 今後取り組むべき具体的方策： 多様な価値観が集まるキャンパスの重要性に留意して

③ 学習機会と内容、成果の明示・発信と就学者の拡大

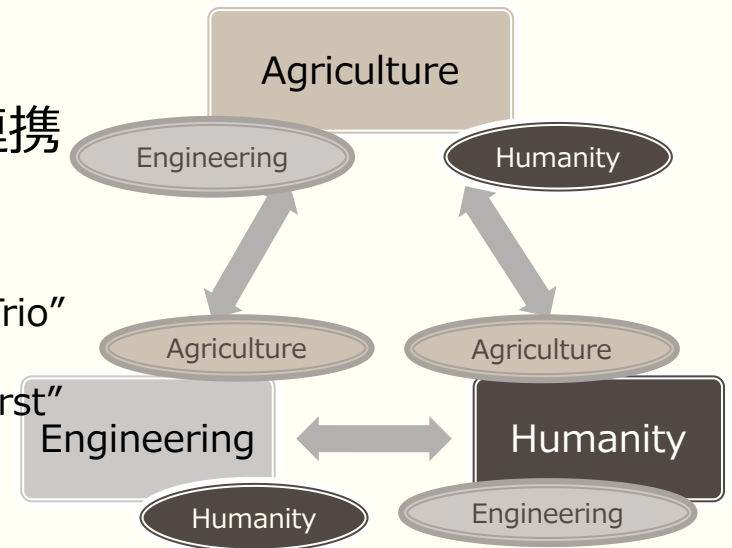


3. 大学間連携による教育・研究強化が拓く就学の機会 (1と2の延長線上にある大学間連携と教育・研究の高度化)

【比較優位性に基づく水平的連携】

- 各組織（分野）の強みを生かした相互連携
- 補完性に基づく教育と就学機会の拡充
- 多面的ニーズへの対応

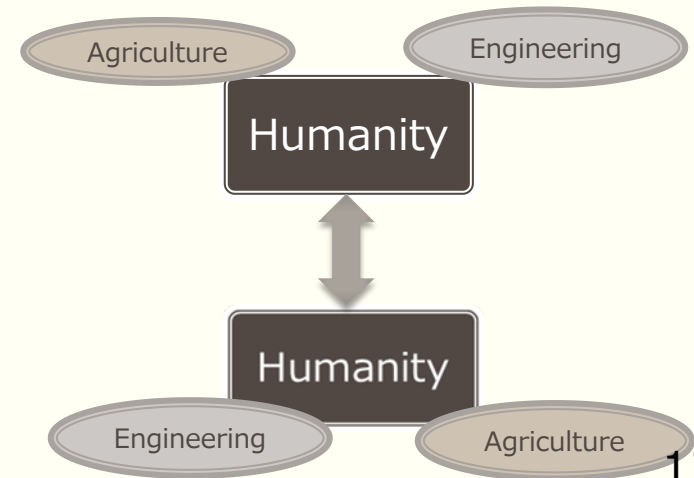
例： Aix-Marseille University(France), “Stockholm Trio”
Karolinska Institute, Stockholm University, and KTH
Royal Institute of Technology(Sweden) “Students First”
initiative by CSCU system (US)



【競争優位性に基づく垂直的連携】

- 共同研究の推進により特定分野の学術的専門性を極める
- 国家間連携による国際競争力の向上
- 卓越した教育と就学機会の提供

例： Neurotech EU; the European University of
Brain and Technology, University of Manchester
(UK Victoria University of Manchester and the
University of Manchester Institute of Science and
Technology) , 4EU+ Alliance (EU)



参考文献

【必要とされる資質・能力、チューニング、参照基準】

北原和夫（2016）「知識の社会化と教育の可視化（第七章）」『国際流動化時代の高等教育—人と知のモビリティを担う大学』松塚ゆかり（編）ミネルヴァ書房。

フリア・ゴンザレス、ローベルト・ワーヘナール（編）、深堀 聡子、竹中 亨（訳）（2012）『欧州教育制度のチューニング—ボローニャ・プロセスへの大学の貢献』明石出版。

松塚ゆかり（2019）「企業が大学に求める資質と技能：労働市場の流動化により何が変わるか」『経済セミナー』No. 708: 65-72。

森有礼高等公育国際流動化センター・デウスト大学国際チューニングアカデミー（2017）『大学卒業者に期待されるコンピテンス日欧比較分析』一橋大学・森有礼高等教育国際流動化センター。

Donà dalle Rose, L.F., and Haug, G. (2014). "Programme Profiles and the Reform of Higher Education in Europe: The Role of Tuning Europe." *Tuning Journal for Higher Education*, 1(1): 203-222.

Gonzalez, J. and Yarosh, M. (2014). "Building Degree Profiles: The Tuning Approach." *Tuning Journal for Higher Education*, 1(1): 37-69.

Matsuzuka, Y. (2020). "Validity of Outcome-oriented, Competency-based Education in the Age of Global Student Mobility: Implications from an EU-Japan Comparative Study on Competencies Expected of University Graduates." *Higher Education Forum*, 17: 1-20.

参考文献

【大学の自律性、情報と意思決定】

Drucker, P. F. (1967). *The Effective Executive*. New York, NY.: Harper & Row, Publishers, Inc.

Michavila, F. and Martinez, J. M. (2018). "Excellence of Universities versus Autonomy, Funding and Accountability." *European Review*, 26: S48 - S56.

Moscardini, A., Strachan, R., and Vlasova, T. (2020). "The Role of Universities in Modern Society." *Studies in Higher Education*, 47(2): 1-19.

Simon, H. A., "Administrative Behavior", 1947.

【比較優位性、競争（絶対）優位性】

Deardorff, A.V. (2005). How Robust is Comparative Advantage. *Review of International Economics*, 13(5). 1004-1016.

Porter, M.E. (1985). *Competitive Advantage*. New York: Free Press.

Ricardo, D. (1817). *On the Principles of Political Economy and Taxation*. London; John Murray.

Matsuzuka, Yukari. (2013). "Horizontal and Vertical Differentiation in the Global Market for Higher Education: An Economic Perspective." *Higher Education Forum*, 10: 71-80.

【参考資料】

汎用コンピテンスリスト

1 抽象的な理論や概念を使って思考、分析、統合する能力	16 チームの一員として働く能力
2 実際の状況に知識を適用する能力	17 対人関係スキル
3 計画を管理しつつ物事を計画的に進める能力	18 人を動機づけ、共通の目標に向かわせる能力
4 専門研究分野の知識と理解力、及びその専門性に関する理解力	19 当人の分野専門外の人間と意思疎通をはかる能力
5 母国語により、口頭、筆記両方で意思疎通できる能力	20 多様性を理解し、尊重する姿勢
6 第二言語で意思疎通をはかれる能力	21 国際的な環境で仕事をする能力
7 情報通信技術を活用する技能	22 自律的に仕事をする能力
8 適切なレベルで研究を遂行する能力	23 プロジェクトを設計し、管理する能力
9 学習能力と学習により最新の知識を取り入れる能力	24 安全性へのこだわり
10 さまざまな資源情報を探し、処理し、分析する能力	25 企業家精神とイニシアティブを発揮する能力
11 批判的思考および自己省察ができる能力	26 倫理的思考に基づき行動する能力
12 新しい状況を受け入れ、適応する能力	27 仕事の成果を評価し、質を維持する能力
13 新しい考え方を生み出す能力（創造性）	28 与えられた職務と請け負った責任を意志と忍耐力を
14 問題を特定し、解決する能力	29 環境保護への深い関与
15 筋道を立てて考え、適切な意思決定を行う能力	30 社会的責任や市民意識に基づいて行動する能力
	31 機会均等やジェンダー問題に対する認識を表す能力

コンピテンス重要度認識上位 5 位の回答者グループ別日欧比較

日本		EU
全対象者		
5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる	1 位	2. 実際の状況に知識を適用することができる
14. 解くべき問題を特定し、解決することができる	2 位	14. 解くべき問題を特定し、解決することができる
3. 時間を管理しつつ、物事を計画的に進めることができる	3 位	1. 抽象的な理論や概念を使って、物事を考え、分析し、まとめることができる
15. 筋道を立てて考え、物事を決めることができる	4 位	5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる
2. 実際の状況に知識を適用することができる	5 位	9. 学習する能力を持ち、最新の知識を取り入れることができる
教員		
5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる	1 位	1. 抽象的な理論や概念を使って、物事を考え、分析し、まとめることができる
1. 抽象的な理論や概念を使って、物事を考え、分析し、まとめることができる	2 位	2. 実際の状況に知識を適用することができる
2. 実際の状況に知識を適用することができる	3 位	14. 解くべき問題を特定し、解決することができる
14. 解くべき問題を特定し、解決することができる	4 位	5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる
22. 自律的に仕事を進めることが	5 位	9. 学習する能力を持ち、最新の知識を取り入れることができる
学生		
14. 解くべき問題を特定し、解決することができる	1 位	2. 実際の状況に知識を適用することができる
5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる	2 位	14. 解くべき問題を特定し、解決することができる
1. 抽象的な理論や概念を使って、物事を考え、分析し、まとめることができる	3 位	22. 自律的に仕事を進めることができる
2. 実際の状況に知識を適用することができる	4 位	4. 専門分野の知識と理解を基に、関連する職業や仕事を理解することができる
15. 筋道を立てて考え、物事を決めることができる	5 位	5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる
卒業生		
3. 時間を管理しつつ、物事を計画的に進めることができる	1 位	2. 実際の状況に知識を適用することができる
14. 解くべき問題を特定し、解決することができる	2 位	14. 解くべき問題を特定し、解決することができる
28. 与えられた職務とそれに伴う責任を、強い意思と忍耐力をもって遂行するこ	3 位	1. 抽象的な理論や概念を使って、物事を考え、分析し、まとめることができる
5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる	4 位	22. 自律的に仕事を進めることができる
15. 筋道を立てて考え、物事を決めることができる	5 位	5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる
企業		
16. チームの一員として働くことができる	1 位	2. 実際の状況に知識を適用することができる
3. 時間を管理しつつ、物事を計画的に進めることができる	2 位	14. 解くべき問題を特定し、解決することができる
17. 他人とうまく関係を作ることができる	3 位	28. 与えられた職務とそれに伴う責任を、強い意思と忍耐力をもって遂行するこ
5. 母国語によりにより、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる	4 位	5. 母国語により、口頭・筆記 両方でコミュニケーションできる
15. 筋道を立てて考え、物事を決めることができる	5 位	16. チームの一員として働くことができる